

第1回円空大賞知事賞

山田光（やまだひかる）

プロフィール

国籍：日本

生年：1923年生まれて間もなく岐阜に転居し、旧制岐阜中学を卒業後、京都に移る。
現在京都市東山区在住。

職業：造形作家



作家略歴

1923年：東京阿佐谷に生まれる。震災後、両親ともに郷里岐阜市に転居。

1946年：八木一夫らと「走泥社」を結成。以後京都、東京にて毎年走泥社展を開催。（1998年解散）

1961年：第7回日本陶磁協会賞を受賞

1962年：「門工房」を設立し、クラフト作品の制作を始める

1979年：大阪芸術大学陶芸科教授に就任

（94年まで、90-92年には、学科長を務める）

1986年：前衛芸術の日本1910-1970（パリ・ジョルジュ・ポンピドゥー・センター）展に出品。

1988年：今日の作家8山田光・森野泰明展開催。

1994年：「山田光作品集」を駸々堂出版より刊行。

1995年：第36回日本陶磁協会賞金賞受賞。京都市文化功労者となる。

1998年：第11回京都美術文化賞（主催：（財）中信美術奨励基金）を受賞。

2000年：「-陶の標-山田光展」（回顧展）（岐阜県美術館／目黒区美術館）

受賞理由

- ・山田光氏は、戦後いち早く「走泥社（そうでいしゃ）」を結成し、焼きものによって、器でない造形作品を制作し、日本の現代焼きもの史を大きく変える原動力として活躍し、陶芸界に大きな影響を与えた。
- ・また、大阪芸術大学では15年間にわたり教鞭を執り、次代を担う造形家の育成に貢献してきた。
- ・山田氏の扱う素材はオブジェ焼きに始まり、黒陶の作品やそのインスタレーション、また、銀泥を使った作品制作へとスケールを広げていった。
- ・山田氏の場合、自分がどうあるべきか、どう生かされているのか、を問うことが制作の要になっている。いずれの作品にもこの哲学的な思索が根底にあり、見る者に生きる意味を考えさせるとともに、精神性の高い世界は、心の安らぎを与えてくれる。
- ・このような展で、円空賞の受賞者としてふさわしい人物であり、また、旧制中学卒業まで岐阜に住み、本県にたいへん縁があることから、円空大賞の知事賞を贈呈する。

